

第24番 最御崎寺

●高知県室戸市室戸岬町4058-1
☎0887-23-0024
●宿坊/あり(要予約)



第25番 津照寺

●高知県室戸市室津2652
☎0887-23-0025
●宿坊/なし



沿線の見どころ



乱礁遊歩道

室戸青年大師像付近から海岸まで設けられた遊歩道。岩の間を縫うように設けられた全長約2.6kmの道のりには、弘法大師ゆかりの行水の池、悲しい伝説があるピシャゴ岩、子授の岩、エボシ岩などの巨岩が点在する。すべてを回ると約1時間かかるが、出入口が各所にあるので予定にあわせてルートを決めて楽しめる。

所 高知県室戸市室戸岬町
☎0887-22-5161
(室戸市観光ジオパーク推進課)



沿線の見どころ



海の駅とろむ

室戸岬に近い漁港内にある海の駅。とれたての鮮魚を提供する食事処「ちばうま八」のほか、目の前の海で朝とれたばかりの魚介、干物や産地直送の野菜、室戸海洋深層水関連の商品を数多く取り扱う市場「くじらはま」がある。わら焼きタタキ体験のほか、イルカとふれあえる室戸ドルフィンセンターも隣接している。

所 高知県室戸市室戸岬町6810-152
☎0887-22-2176
●売店 9:00~17:00、
レストラン 11:00~16:00(ラストオーダー)
●水曜(祝日の場合は営業)



境内の見どころ



鐘石

境内のほぼ中央に置かれたこの石は、叩くと鐘のような高い音がするのために鐘石といわれる。この音は極楽浄土まで届くとされ、弘法大師の七不思議に数えられている。鐘石の上に、それを叩くための小石が置かれているが、長年多くの人々が叩いたせいか、その部分がくぼんでしまっているのが印象的だ。



亜熱帯植物に囲まれた重厚な本堂

第24番

室戸山 最御崎寺

明星院 むろとざん みょうじょういん ほつみさきじ

厳しい修行の道場の始まりの寺

歴史・全体像

青年だった弘法大師が、悟りを開いた場所とされる室戸岬。その岬の頂上にある最御崎寺は、26番金剛頂寺の通称「西寺」に対して「東寺」と呼ばれている。大同2年(807)、唐から帰朝した弘法大師は、再びこの地を訪れ、嵯峨天皇の勅願を受けて伽藍を建立する。その後も歴代の天皇から篤い信仰を受け、足利尊氏はここを土佐の安国寺として利生塔を置いた。

近世初期には落雷火災に遭い、堂宇を消失したが、元和年間(1615~1624)に土佐藩主・山内忠義の援助で僧・最勝が再興させた。明治の神仏分離令により堂宇は再び荒廃するが、大正時代に入り再興した。

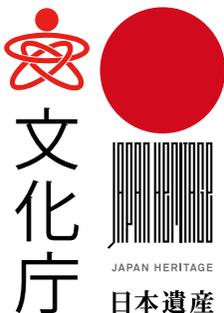
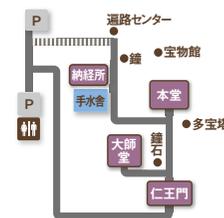
境内

ゆるやかな上り坂の参道を抜けると、亜熱帯植物の林に囲まれた仁王門にたどり着く。境内に入ると、左手に土俵、右手には十一面観音菩薩像がある。菩薩像の後ろに広がる森は、国内でも珍しいシイの木に寄生するヤッコソウの群落地となっている。仁王門をくぐり境内を奥に進むと、左手に大師堂、右手前には慶安元年(1648)に竣工した鐘楼堂がある。空海の七不思議に数えられる鐘石は、境内のほぼ中央に鎮座する。本堂の裏には遍路センターがあり、それを過ぎると急な下り坂となっていて、途中には小さなお地蔵さんが並ぶ「一言お願い地蔵」がある。



大師堂の前には土俵が残されている

御詠歌/明星の出でぬる方の東寺暗き迷いはなかあらまじ
本尊/虚空蔵菩薩
真言/のうぼう あきやしゃきやらば
やおん ありきやまり ぼり そわか
宗派/真言宗豊山派
開基/弘法大師



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

第25番 津照寺

●高知県室戸市室津2652
☎0887-23-0025
●宿坊/なし

第26番 金剛頂寺

●高知県室戸市元乙523
☎0887-23-0026
●宿坊/なし



沿線の見どころ



道の駅 キラメッセ室戸

国道55号沿いの、大きなクジラのオブジェが目印の道の駅。太平洋を望みながら浜アザミの天ぷらなど室戸の郷土料理とクジラ料理が楽しめる「レストラン食遊」、日本初のザトウクジラの骨格標本を展示し、捕鯨の歴史などを学べる「鯨館」、ピワなどの室戸の特産品が並ぶ「農産物直販所楽市」の三つの施設がある。

所 高知県室戸市吉良川町丙890-11
金剛頂寺から西へ2.8Km
☎ 鯨館0887-25-3377、食遊3500、
楽市2918
📍 施設により異なる(要問合せ)
📅 月曜(祝日の場合は翌日)



境内の見どころ



境内からの眺め

室津港に寄り添う小高い山の上に建つ本堂。ここから眺める景色の良さは定評がある。高度はさほどないものの、漁師町の風情と、その先に広がる紺碧の太平洋が、巡礼の疲れを癒やしてくれるだろう。境内の弘法大師像は、航行の安全を見守るために、海をしっかりと見据えるように立っている。



境内の見どころ



鐘楼門

昭和40年代に建立された鐘楼門は、別名「仏の灯台」と呼ばれ、この寺のシンボルだ。その名のとおり、鮮やかな朱色に塗装され、周囲の深い緑と絶妙なコントラストを見せてくれる。石段の途中に設けられているので、ここで一息つくのもいい。内部は気軽に入れる構造になっている。



山の上から海で働く人々を見守ってきた寺

第25番

宝珠山 津照寺

ほうしゅざん しんごんいん しんしょうじ

山内一豊を救った楫取地蔵を祀る

歴史・全体像

弘法大師が大同2年(807)にこの地で教えを説いていた時に開いた寺。地元では「津寺(つでら)」と呼ばれ親しまれている。海で働く人の無事と豊漁を祈願して延命地蔵が安置され、建立以来多くの信仰を集め、戦国時代には長宗我部氏、江戸時代には土佐藩主の山内氏が深く帰依した。慶長7年(1602)、航海中の初代藩主山内一豊が室津沖で嵐に遭った際、一人の僧が現れ船を安全に操ってくれた。翌日その僧を追って寺を訪れると、本尊の延命地蔵がびしょ濡れだったという伝説から、本尊は「楫取(かじとり)地蔵」とも呼ばれている。明治に一時廃寺となるが、明治16年(1883)に再興した。

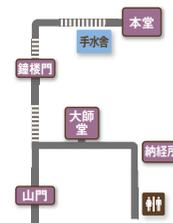
境内

室津港から導かれるように参道が小高い山へと続く。山門をくぐると、右手に大師堂と納経所がある。本堂は勾配がかなり急な石段125段を上りきったところに建ち、室津港とその港町が一望できる。石段の途中には、竜宮城のような鮮やかな色合いの鐘楼門があり、この内部からも風景を楽しむことができる。本堂はしっかりとしたコンクリート造りで、昭和50年(1975)に完成したものだ。

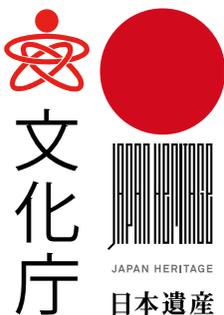
弘法大師の作とされる本尊の楫取地蔵は、海上安全や家内安全などにご利益があるとされ、漁師など船乗りのみならず、幅広く信仰されている。



コンクリート造りの本堂は朱色に塗装



御詠歌/法の舟入るか出るかこの津寺迷ふ吾身をのせてたまへや
本尊/楫取(かじとり)延命地蔵菩薩
真言/おん かかかひ さんまえい そわか
宗派/真言宗豊山派
開基/弘法大師



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

「四国遍路」巡礼マップ

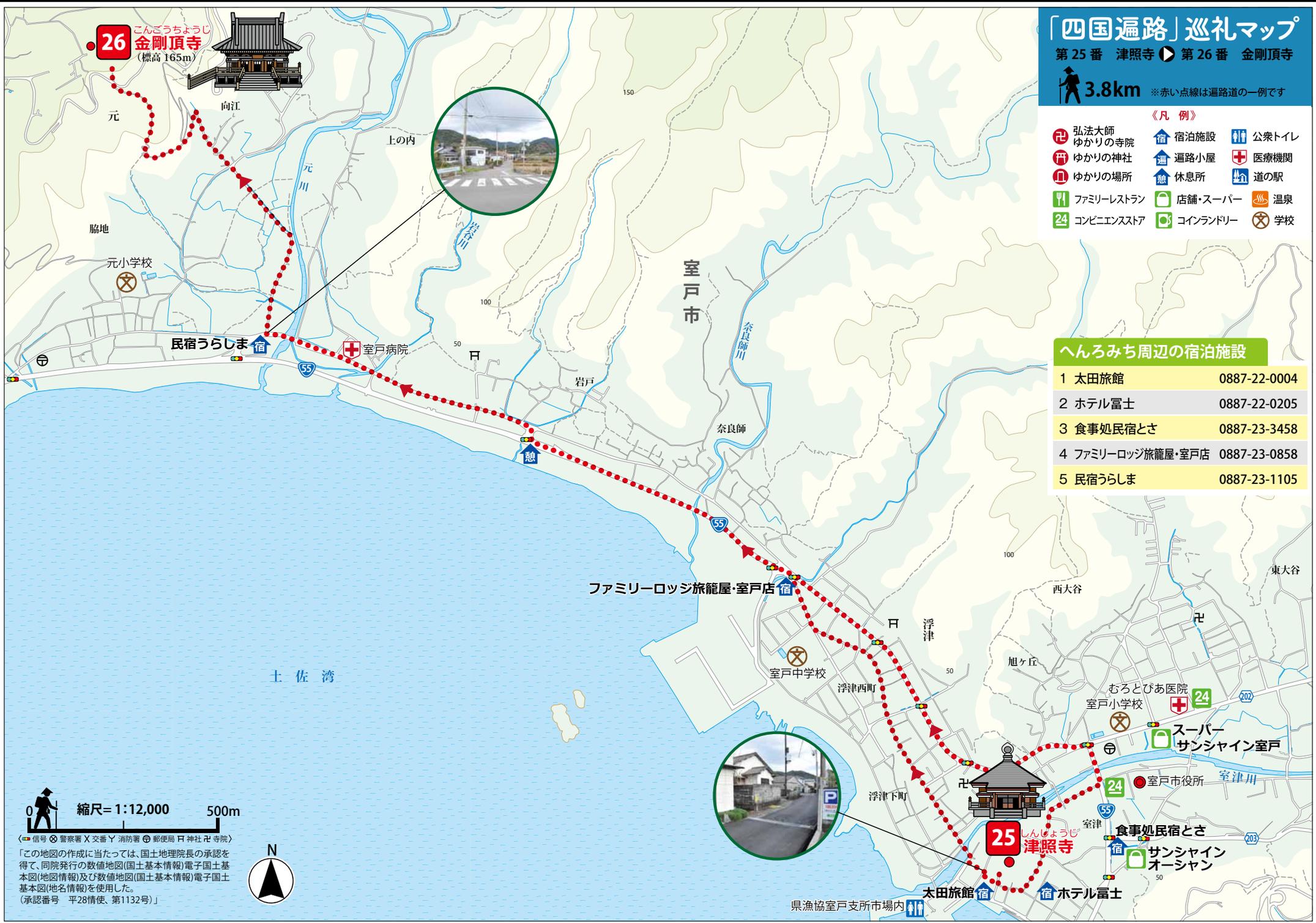
第25番 津照寺 ▶ 第26番 金剛頂寺

3.8km ※赤い点線は遍路道の一例です

- 《凡例》
- 弘法大師 ゆかりの寺院
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - ファミリーレストラン
 - コンビニエンスストア
 - 宿泊施設
 - 遍路小屋
 - 休息所
 - 店舗・スーパー
 - コインランドリー
 - 公共トイレ
 - 医療機関
 - 道の駅
 - 温泉
 - 学校

へんろみち周辺の宿泊施設

1 太田旅館	0887-22-0004
2 ホテル富士	0887-22-0205
3 食事処民宿とさ	0887-23-3458
4 ファミリーロッジ旅籠屋・室戸店	0887-23-0858
5 民宿うらしま	0887-23-1105



縮尺= 1:12,000 500m

◀ 信号 ⊗ 警察署 X 交番 Y 消防署 郵便局 神社 寺院 ▶

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)及び数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地名情報)を使用した。(承認番号 平28情使、第1132号)」

第26番 金剛頂寺

●高知県室戸市元乙523
☎0887-23-0026
●宿坊/なし



第27番 神峯寺

●高知県安芸郡安田町唐浜2594
☎0887-38-5495
●宿坊/なし



沿線の見どころ



岡御殿

藩政時代末期の面影を残す豪商岡家の御殿で、藩主が東部巡視の際に本陣として使用したと伝えられている。昭和60年に県の有形文化財に指定された後、平成9年に修復復元され、現在は、駕籠や茶弁当など岡家に伝わる品々や当時の商人の暮らしがわかる資料等を展示した資料館として一般公開している。

☎ 高知県安芸郡田野町2147-1
☎ 0887-38-3385
🕒 9:00~16:30
🔥 火曜(祝日の場合は翌日)
👤 大人500円、中高生300円
(20名以上は割引あり)



境内の見どころ



一粒万倍の釜

大師堂の横にある赤さびた釜は、「一粒万倍の釜」と呼ばれ、弘法大師が三合三勺(約495g)の米を入れて炊いたところ、万倍にも増え、飢えた人々を救ったという伝説を持つ。その近くに生えていた幹がコブに覆われたツバキは「がん封じの椿」と呼ばれ、枯れた後も幹が祀られており、病気平癒を願う人々の参拝が絶えない。



境内の見どころ



霊宝殿

正倉院を思わせる校倉造りの霊宝殿には、多くの文化財が收藏されており、事前に連絡すれば見学することができる。收藏品の中でも、金銅旅壇具、朝鮮高麗時代の銅鐘、平安末期の木造阿弥陀如来像、真言密教伝法の師8人をモデルにした真言八祖像などは国の重要文化財に指定されている。



堂々たる風格が漂う本堂は昭和58年(1983)に改築された

第26番

龍頭山 金剛頂寺

りゅうずざん こうみょういん こんごうじょうじ

かつての捕鯨の町を見守る寺

歴史・全体像

室戸岬から西に進んだところにある行当岬。その背後にある標高約100mの高台に建つ金剛頂寺は、室戸三山のひとつとして、通称「西寺」と呼ばれている。大同2年(807)、嵯峨天皇の勅願により弘法大師が開基した。その後、嵯峨天皇、淳和天皇の勅願所として栄え、現在の室戸市の大部分を寺領とするが、文明11年(1479)、火災のために本堂を消失する。しかし、すぐに再興し、文明18年(1486)に本堂が建立された際には、盛大に大曼荼羅供養が行われた。

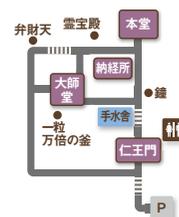
明治32年(1899)には再び火災に遭い、現在の堂宇はそれ以降に再建されたものである。

境内

約70mほどの石段を上って仁王門をくぐると、広い境内にたどり着く。左手には大師堂、右手には鐘楼があり、正面には堂々たる本堂がある。本堂の横には数々の文化財が收藏されている霊宝殿が佇む。また、境内には鯨の霊を供養する碑も建ち、かつて捕鯨で栄えた地の名残を感じさせる。トイレの横を抜けると、室戸岬や太平洋を一望できる展望スペースが広がる。大師堂が建っているのは、かつて弘法大師と天狗が問答したという場所。天狗を足摺岬に封印した大師は、自らの姿を刻み、この地に残した。そのため大師堂は足摺岬のほうを向いて建っている。



大師堂は「天狗問答」の伝説が残る場所



御詠歌/往生に望みをかくる極楽は月のかたむく西寺のそら
本尊/薬師如来
真言/おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
宗派/真言宗豊山派
開基/弘法大師

日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



第27番 神峯寺

●高知県安芸芸都安田町唐浜2594
☎0887-38-5495
●宿坊/なし



第28番 大日寺

●高知県香南市野市町母代寺476
☎0887-56-0638
●宿坊/なし



沿線の見どころ



絵金蔵

幕末土佐の絵師・金蔵(通称:絵金)の芝居絵屏風を収蔵、展示する美術館。芝居絵屏風が飾られる祭礼の様子を再現した闇の展示室や、壁の穴から実物の屏風絵をのぞき見できるコーナーなど、展示方法もユニークだ。毎年7月には、赤岡町本町・横町商店街で絵金祭りが開催され、通りに屏風絵が展示される。

☎ 高知県香南市赤岡町538
☎ 0887-57-7117
🕒 9:00~17:00(入館は16:30まで)
📅 月曜(祝日の場合は翌日)、12/29~1/3
💰 大人500円



沿線の見どころ



県立公園ヤ・シイパーク

道の駅と鉄道駅・バス停を併設。道の駅には産直市やレストラン、土産物店など7店舗があり、観光情報センターでは宿泊やイベント情報などが入手できる。太平洋に面した公園は夏季は海水浴場となり、シャワー、ロッカー、更衣室などを完備。デイキャンプやバーベキューサイト(要予約)は一年を通じて利用できる。

☎ 高知県香南市夜須町千切537-90
☎ 0887-57-7122(道の駅やす)
🕒 9:00~18:00(夏季は8:00~19:00)
📅 無休



境内の見どころ



石段沿いの景観

境内の景観の美しさでは、四国霊場でも有数といわれる神峯寺。本堂まで続く石段の両脇は、丁寧に刈り揃えられた低木で構成された庭園となっている。早春にはウグイスの風流なさえずりが響き渡り、初夏になるとツツジやジャクナゲが咲くなど、四季折々の風情が訪れる人を楽しませてくれる。



自然にとけ込み優雅な佇まいを見せる本堂

第27番

竹林山 神峯寺

ちくりんざん じぞういん こうのみねじ

遍路ころがしの急坂は土佐の難所

歴史・全体像

始まりは神功皇后が戦勝を祈願することを目的に、天照大神などの諸神を祀ったことから。その後行基が十一面観音像を刻んで本尊とし、神仏を合祀。大同4年(809)に弘法大師が天皇の勅命により来錫、諸堂を整え霊場とした。明治時代には神仏分離令で廃寺となり、本尊は金剛頂寺に移されるが、明治17年(1884)には再興された。またこの寺は、三菱財閥創始者の岩崎弥太郎の母親が、息子の開運を祈願して熱心に参拝したことで知られている。母親は安芸市にある自宅から寺までの道のり約20kmを歩き、さらに遍路ころがしと呼ばれる急坂を上ることを21日間も続けたといわれている。

境内

「真っ縦」と呼ばれる急勾配の山道が続く神峯山山頂付近にある神峯寺。山道を上りきり、仁王門までたどり着いたとしても、さらに約160段の石段を上らなければ本堂と大師堂まで至らない。

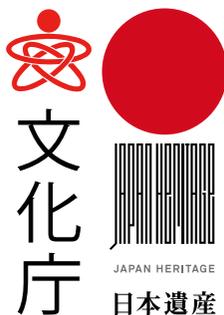
石段の両脇には美しい庭園が整備されており、厳しい巡礼にひとときの安らぎを与えてくれる。杉の大木などの鬱蒼とした森を背にした堂宇は、簡素ながらも堂々とした佇まいだ。

本堂前には、今にも歩き出しそうな弘法大師像や、炎の赤が目をひく不動明王像が建つ。境内からは土佐湾を一望できる。



仁王門を抜けてすぐは広々としている

御詠歌/みほとけのめぐみの心こうのみね山も誓ひも高き水音
本尊/十一面観世音菩薩
真言/おん まか きやろにきゃ そわか
宗派/真言宗豊山派
開基/行基菩薩



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に





第28番 大日寺

●高知県香南市野市町母代寺476
☎0887-56-0638
●宿坊/なし



第29番 国分寺

●高知県南国市国分546
☎088-862-0055
●宿坊/なし



沿線の見どころ



黒潮温泉 龍馬の湯

お遍路さんが数多く利用する「高知黒潮ホテル」に隣接する温泉施設。地下1300mから毎分200ℓもの湧出量を誇り、その成分はアルカリ性で、ミネラルを豊富に含む。効能は高知県内最多の19種類以上を数え、巡礼の疲れを癒やしつつ、健康増進や美肌効果も期待できそう。さわやかな香りがうれしい檜張りのサウナも。

所 高知県香南市野市町東野1630
大日寺から南へ2.8Km
☎ 0887-56-5800 (高知黒潮ホテル)
営業 10:00~24:00 (礼止23:30)
休 無休
料 大人900円



沿線の見どころ



創造広場「アクランド」

「世界にひとつだけ!」がギュッとつまった8つの展示館と、充実した無料エリアからなる複合的テーマパーク。展示館のひとつである「龍馬歴史館」は、坂本龍馬激動の人生を120体の蟬人形で再現した、世界で唯一の展示館。他にも、ここでしか見られない貴重な展示物が盛りだくさん。

所 高知県香南市野市町大谷928-1
☎ 0887-56-1501
営業 10:00~18:00 (最終入館17:30)
休 無休
料 龍馬歴史館大人1,500円、他7館各1,000円



境内の見どころ



奥の院の爪彫薬師

納経所から山道をしばらく進むと、奥の院がひっそりと佇む。ここに祀られているのは、弘法大師が爪で彫ったとされるクスノキの霊木の薬師如来。首から上の病気にご利益があると伝えられている。病気が平癒した人は穴が開いた石を奉納するため、床下には多くの石が積み重ねられている。



整然とした境内は季節の花で彩られる

第28番

法界山 大日寺

ほうかいさん こうしょういん だいにちじ

霊験を求めて参拝者が絶えない寺

歴史・全体像

天平年間(729~749)、聖武天皇の勅願により行基が開基した大日寺。その後まもなく荒廃したが、弘仁6年(815)に弘法大師が来錫。楠の大木に爪で薬師如来を刻み、奥の院に安置し、ここを霊場と定めた。慶長年間(1596~1615)以降は、土佐藩の祈願寺として大いに栄えた。しかし、明治4年(1871)には廃仏毀釈のあおりを受けて廃寺となってしまう。しかしながらその間も、地元の人たちは本堂を大日堂として守り続け、明治17年(1884)に再興された。現在の堂宇はそれ以降に再建されたもので、屋根が反った本堂は、平安時代の堂宇の特徴を示している。

境内

田園に囲まれた三宝山の中腹にある。駐車場から石段を上るとどり着く境内は、早春にはサンシュユ、3月の彼岸の頃にははだれ桜、10月中旬以降には十月桜やマンリョウが彩り、四季折々の変化を楽しむことができる。本堂には、行基作と伝わる本尊、大日如来坐像が安置されている。像は約145cmもあり中四国では最大級。国の重要文化財だが、残念ながら非公開だ。本堂を挟むように六角堂(地蔵堂)と大師堂が配されている。納経所から山道に約150mほど進むと、奥の院と御加持水がある。また、日本三大鍾乳洞の一つ、龍河洞へも足を運びたい。



屋根の両端が反っているのが特徴の本堂

御詠歌／露霜と罪を照らせる大日寺
なかか歩みを運ばざらまし
本尊／大日如来
真言／おん ぼざらだど ばん
宗派／真言宗智山派
開基／行基菩薩



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

「四国遍路」巡礼マップ

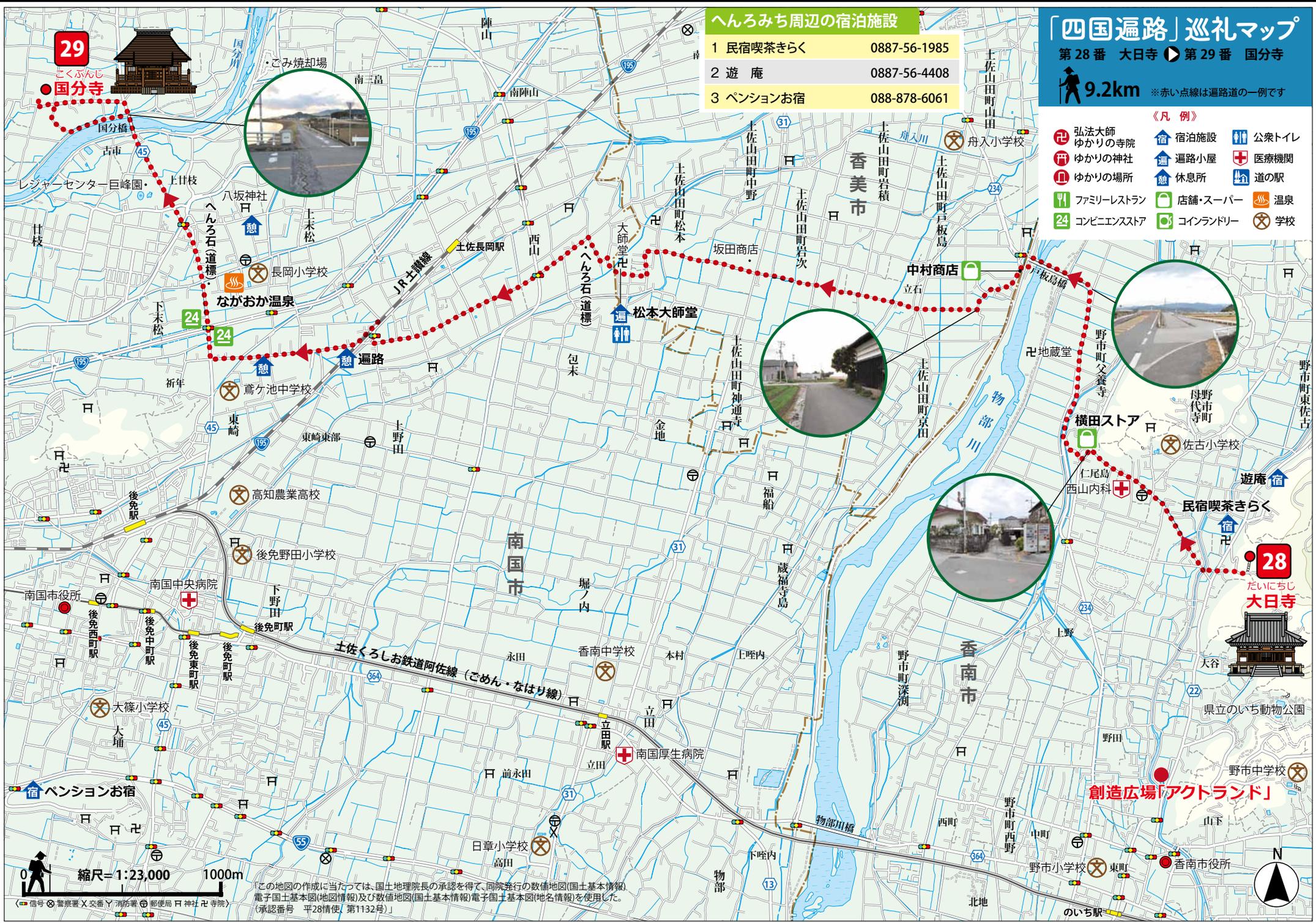
第28番 大日寺 ▶ 第29番 国分寺

9.2km ※赤い点線は遍路道の一部です

- 【凡例】
- 弘法大師ゆかりの寺院
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - ファミリーレストラン
 - コンビニエンスストア
 - 宿泊施設
 - 遍路小屋
 - 休息所
 - 店舗・スーパー
 - コインランドリー
 - 公共トイレ
 - 医療機関
 - 道の駅
 - 温泉
 - 学校

へんろみち周辺の宿泊施設

- 1 民宿喫茶きらく 0887-56-1985
- 2 遊庵 0887-56-4408
- 3 ペンションお宿 088-878-6061



縮尺=1:23,000 1000m

この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)及び数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地名情報)を使用した。(承認番号 平28情使(第1132号))

第29番 国分寺

●高知県南国市国分546
☎088-862-0055
●宿坊/なし



第30番 善楽寺

●高知県高知市一宮しなね2-23-11
☎088-846-4141
●宿坊/なし



沿線の見どころ



天然の湯 ながおか温泉

毎日お湯を入れ替えるため、気持ち良く入浴が楽しめる温泉。露天風呂、露天打たせ湯、寝湯など湯船を多数用意。通常のサウナのほかに、高温が苦手な人も安心して利用できるスチームサウナもある。温泉水を利用した歩行浴のできる25mプール、トレーニングルームも完備。お遍路さんは利用料金が割引になる。

所 高知県南国市下末松106
国分寺から南東へ1.6Km
☎ 088-864-6300
🕒 10:00~22:00
休 第2水曜(祝日の場合は第3水曜)



沿線の見どころ



西島園芸団地

広大な敷地内には年間を通じてメロンやスイカが栽培され、一本の木から一つしか収穫しないという最高級品の味わいを園内で堪能できる。さらに約200種類以上の草花も栽培展示しており、気に入ったものがあれば購入できる。手づくりジャムやメロンの粕漬けなど、お土産に最適な農産加工品も販売。

所 高知県南国市廿枝600
☎ 088-863-3167
🕒 9:00~17:00
休 無休
料 フルーツ券780円、イチゴ狩(時期により料金変動)



境内の見どころ



仁王門

明暦元年(1655)、土佐藩主・山内忠義公が寄贈したといわれる仁王門。昭和62年(1987)には解体修理が行われた。以前まで創建当時の梵鐘がかかっていたが、現在は本堂の中に収められている。その梵鐘は、形状から平安時代前期のものと考えられ、国の重要文化財に指定されている。



手入れが行き届いた境内には句碑や歌碑が点在している

第29番

摩尼山 国分寺

まにざん ほうぞういん こくぶんじ

紀貫之にゆかりのある土佐の名刹

歴史・全体像

「諸国でもっとも良い土地を選んで建てよ」という聖武天皇の勅願により、天平13年(741)に行基が建立した寺。天皇自らが金光明最勝王経を書写して納め、天下泰平、五穀豊穡、万民豊樂の祈願所とした。本尊は千手観世音菩薩。後に弘法大師が真言宗の寺として中興し、霊場として定めた。この一帯は『土佐日記』の作者紀貫之が国司として4年間滞した場所としても知られ、寺の北東には紀貫之が赴任した屋敷跡が残されている。また歴代の天皇や土佐藩主からも篤い信仰を集めた。境内には数多くの文化財が残っているため、大正11年(1922)には、境内全域が国の史跡に指定された。

御詠歌/国を分け宝を積みて建つ寺の末の世までの利益残せり
本尊/千手観世音菩薩
真言/おんばざらたらまきりく
宗派/真言宗智山派
開基/行基菩薩



本堂の屋根は薄い板を重ねた柿葺き

境内

仁王門をくぐると正面に見える本堂は金堂とも呼ばれ、永禄元年(1558)に長宗我部国親・元親親子が再建したもの。天平様式を思わせる柿(こけら)葺き、寄棟造りが特徴的な建物で、国の重要文化財に指定されている。その左側には寛永11年(1634)に建立された大師堂がある。

さらにその左には酒断地蔵がある。元は国分寺の飛び地境内であった香美市土佐山田町穴内にあったものだが、その地にダムが建設されたため、ここに移転された。

江戸時代には土佐藩主山内公が、参勤交代の途中に安全を祈願するため、立ち寄ったとされる寺だ。



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

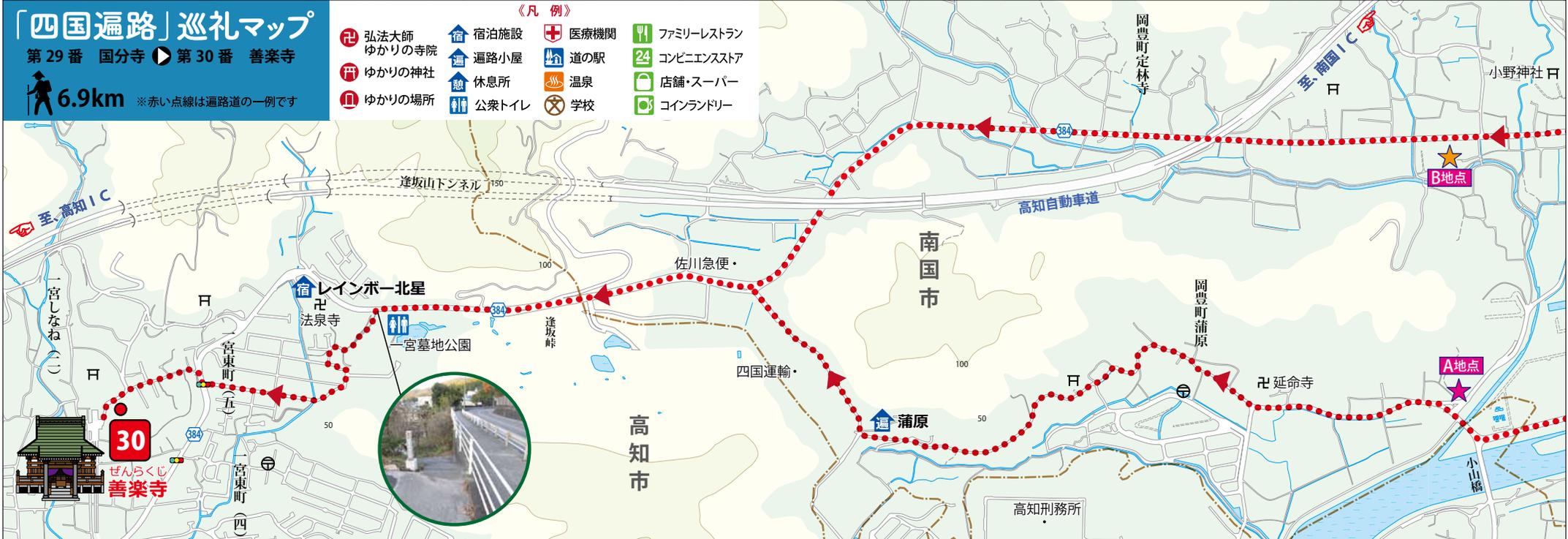
こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

「四国遍路」巡礼マップ

第29番 国分寺 ▶ 第30番 善楽寺

6.9km ※赤い点線は遍路道の一例です

- 《凡例》
- 弘法大師 ゆかりの寺院
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - 宿泊施設
 - 遍路小屋
 - 休息所
 - 公衆トイレ
 - 医療機関
 - 道の駅
 - 温泉
 - 学校
 - ファミリーレストラン
 - コンビニエンスストア
 - 店舗・スーパー
 - コインランドリー



へんろみち周辺の宿泊施設

1 レインボー北星 088-826-4680



縮尺= 1:12,000 500m

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)及び数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地名情報)を使用した。(承認番号 平28情使、第1132号)」

第30番 善楽寺

●高知県高知市一宮しなね2-23-11
☎088-846-4141
●宿坊/なし



第31番 竹林寺

●高知県高知市五台山3577
☎088-882-3085
●宿坊/なし



沿線の見どころ



高知県立美術館

マルク・シャガールの世界的版画コレクションや写真家・石元泰博ら高知ゆかりの作家作品を収蔵。多様なジャンルの企画展やワークショップの開催、美術館ホールでのコンサートや映画の上映会など、様々なイベントを手がけ、高知の芸術に関する情報発信基地となっている。併設されたミュージアムカフェやアートグッズを販売するミュージアムショップも人気。

所 高知県高知市高須353-2
☎ 088-866-8000
時 9:00~17:00
休 12/27~1/1 ※臨時休館あり
料 コレクション展観覧料大人360円



境内の見どころ



梅見地藏

子安地藏堂の奥に鎮座する地藏は、文化13年(1816)の作。学業成就、合格祈願、首から上の病の平癒祈願にご利益があるとされ、全国各地から参拝客が訪れる。かつては梅の木の下にあり、その木を仰ぎ見る姿から「梅見地藏」と呼ばれるようになった。梅見地藏の枕カバー(1,000円)も授与されている。



境内の見どころ



子安地藏堂・水子供養堂

本堂と大師堂の向かいに建つ子安地藏堂には、白い顔がどこかユーモラスな子安地藏が鎮座している。この地藏は子宝祈願にご利益があるとされる。また、その隣には水子供養堂があり、フェルト地でできたかわいい地藏絵馬(300円)がある。願いごとを書き込んで奉納したり、そのまま持ち帰ったりできる。



土佐神社と隣接する境内。駐車場もすぐそこ

第30番

百々山 善楽寺

どどざん とうみょういん ぜんらくじ

明治の廃仏毀釈に翻弄された古刹

歴史・全体像

大同年間(806~810)、弘法大師がこの地に巡錫のおり、高鴨大明神(現土佐神社)の別当寺として神宮寺と善楽寺を建立。善楽寺を四国八十八ヶ所霊場第30番と定める。しかし明治時代になり、神仏分離、廃仏毀釈のあおりを受け、神宮寺と善楽寺は廃寺となる。明治9年(1876)、安楽寺が「仮の借置」として30番の代行業務を行う。昭和4年(1929)には善楽寺も再興し、その後は善楽寺と安楽寺の二ヶ所で30番の納経を行うこととなった。

平成6年(1994)、安楽寺が第30番の奥の院、善楽寺が正式に第30番となり、この騒動に決着がついた。

境内

駐車場に隣接した境内は、明るい日差しが差し込む開放的な雰囲気。

土佐一宮として知られる土佐神社が隣にあるため、参拝者も多い。本堂の手前にある大師堂は、大正時代に建てられたもの。

本堂は昭和57年(1982)に改築された。本尊は金仏阿彌陀如来坐像。また、本堂内には江戸時代末期の木造薬師如来坐像や観音菩薩などが安置されており、その向かいには子安地藏堂と水子供養堂、梅見地藏がある。

奥の院・安楽寺は、善楽寺より約5km西、高知市街に入り、高知城北側にある。



本堂の前には釈迦の足跡を印した仏足跡

御詠歌/人多くたちあつまれるいちのみやむかしもいまもさかえぬるかな
本尊/阿彌陀如来
真言/おん あみりた ていぜい からうん
宗派/真言宗豊山派
開基/弘法大師



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

「四国遍路」巡礼マップ

第30番 善楽寺 ▶ 第31番 竹林寺

6.6km ※赤い点線は通路道の一例です

《凡 例》

- ① 弘法大師ゆかりの寺院
- ② ゆかりの神社
- ③ ゆかりの場所
- ④ ファミリーレストラン
- ⑤ コビエンスストア
- ⑥ 公衆トイレ
- ⑦ 宿泊施設
- ⑧ 通路小屋
- ⑨ 休息所
- ⑩ 店舗・スーパ
- ⑪ コインランドリー
- ⑫ 医療機関
- ⑬ 道の駅
- ⑭ 温泉
- ⑮ 学校



へんろみち周辺の宿泊施設
1 サンピアセリーズ 088-866-7000

「この地図の作成に当たっては、国土
地理院長の承認を得て、同院発行の
教訓地区(国土基本情報)電子国土基
本図(地図情報)及び教訓地区(国土基
本情報)電子国土基本図地名情報(第
1132号)を使用した。
(承認番号 平28情使、第1132号)」

第31番 竹林寺

●高知県高知市五台山3577
☎088-882-3085
●宿坊/なし



第32番 禅師峰寺

●高知県南国市十市3084
☎088-865-8430
●宿坊/なし



沿線の見どころ



高知県立牧野植物園

高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰するために開園。五台山の起伏を利用した約6haの広大な園地は、博士ゆかりの植物を中心に約3000種類もの植物で彩られている。展示館では博士直筆の植物図や貴重な蔵書に加え、博士の生涯をパネルで紹介。年に数回、企画展が開催され、様々なイベントも好評だ。

所 高知県高知市五台山4200-6
☎ 088-882-2601
🕒 9:00～17:00
休 12/27～1/1
料 一般720円(高校生以下無料)
団体620円(20名以上)



境内の見どころ



総檜造りの五重塔

かつて竹林寺には三重塔があったが明治32年(1899)の台風により倒壊。それ以来、塔再建を悲願としてきたが、ついには昭和55年(1980)、高知県で唯一の五重塔として再建。高さ31.2mを誇り、国内でも貴重な塔として知られる。総檜造りで、鎌倉時代初期の様式に倣って造られている。

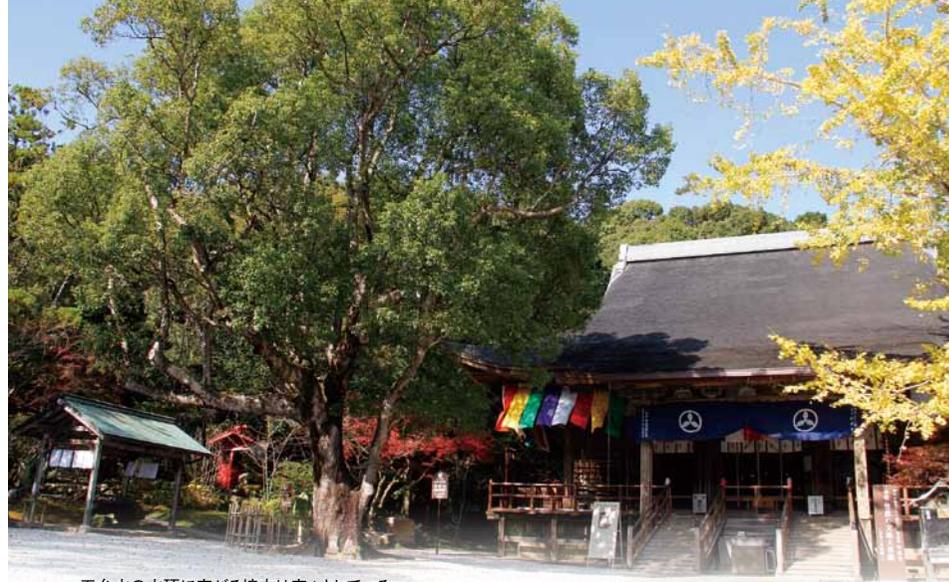


境内の見どころ



名勝庭園

客殿の西と北に広がる庭は、禅の高僧・夢窓国師により造られたとされている。国師は文保2年(1318)から2年間、土佐を訪れ、五台山の麓に草庵を結んだ。山畔を利用して造られた北庭と、中国の風景を模した西庭があり、高知県三名園の一つとして数えられている。見学は大人400円(宝物館共通)。



五台山の山頂に広がる境内は広々としている

第31番

五台山 竹林寺

ごだいさん こんじきいん ちくりんじ

土佐の宗教・文化の中心的存在

歴史・全体像

神亀元年(724)、聖武天皇の勅願により行基が開基した土佐屈指の古刹。聖武天皇が、文殊菩薩の聖地・中国五台山に似た山を国内で探し出すことを行基に命じ、諸国を探した行基はこの地を選んで、本尊の文殊菩薩を自ら刻み堂塔を建立した。その後、大同年間(806～810)には、弘法大師が来錫し、堂宇を補修した。江戸時代に入ってから土佐藩主の帰依を受けて、寺運は大いに隆盛する。堂塔は土佐随一の荘厳さを誇り、多くの名僧が集まってきた。そのため「南海第一道場」と呼ばれ、土佐の信仰や文化の中心地となった。明治初頭には一時衰微するが、その後再興された。

境内

駐車場の入り口のすぐそばにあるのは、重要文化財指定の仏像が17体納められている宝物館。高知三名園に数えられる庭園や客殿を通り過ぎ、さらに奥へと進むと二層の仁王門が見上げるように建つ。門をくぐり石段を上ると、右手には本堂、左手には大師堂。正面には五重塔の優美な姿が迫る。本堂は、寛永20年(1643)の火災の後、土佐二代藩主・山内忠義によって造営された。本尊の文殊菩薩坐像を祀っていることから、文殊堂とも呼ばれている。本尊の文殊菩薩は4人の従者を従えて獅子に乗っており、50年に一度しか開帳されない秘仏。



四国霊場で唯一、文殊菩薩を祀る本堂



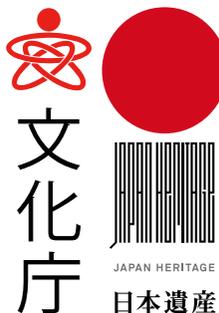
御詠歌/南無文殊三世の仏の母ときくわれも子なれば乳こそほしけれ
本尊/文殊菩薩
真言/おん あらはしやのう
宗派/真言宗智山派
開基/行基菩薩

日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



JAPAN HERITAGE
日本遺産



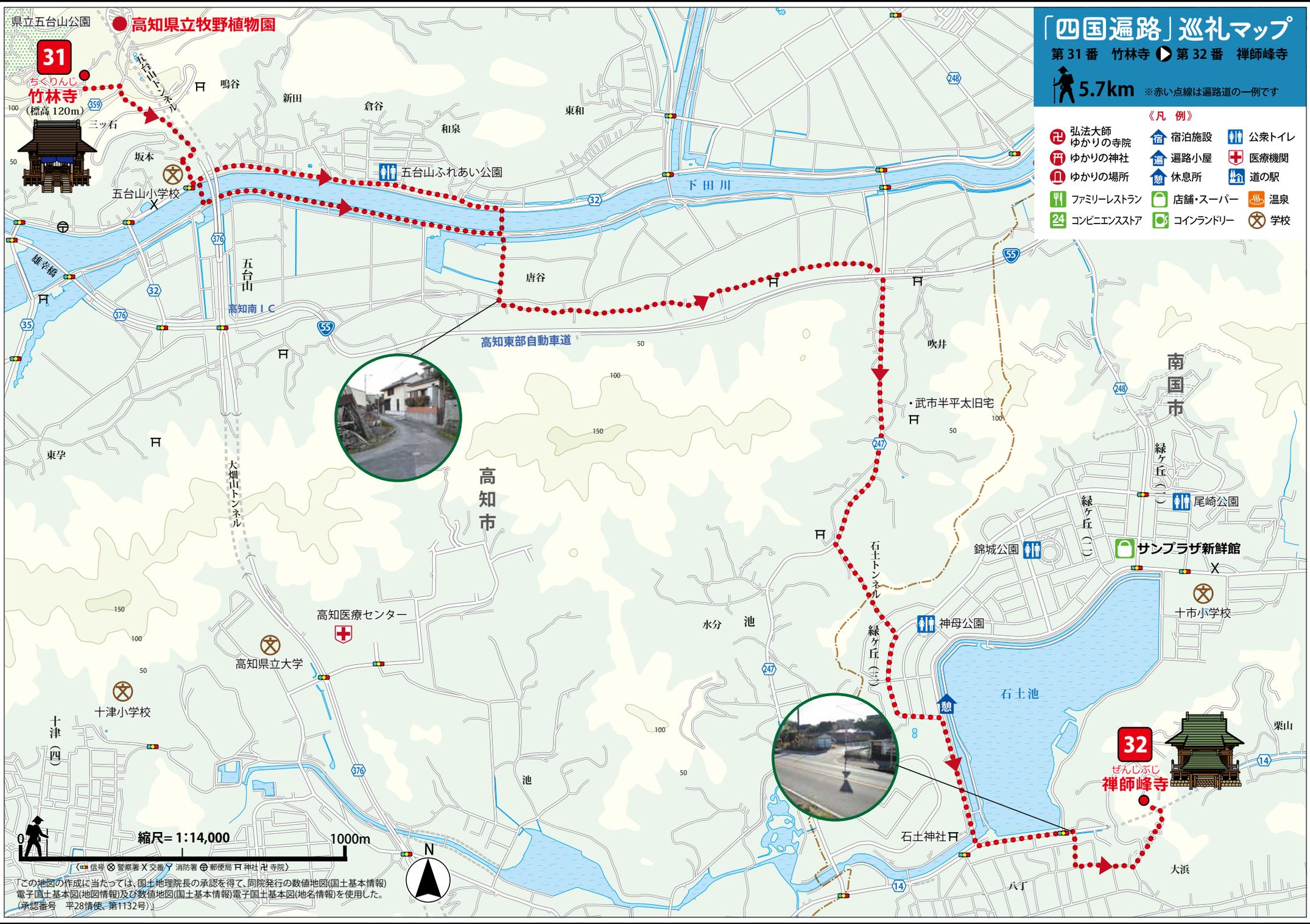
JAPAN HERITAGE
日本遺産

「四国遍路」巡礼マップ

第31番 竹林寺 ▶ 第32番 禅師峰寺

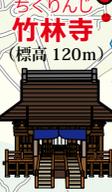
5.7km ※赤い点線は遍路道の一例です

- 《凡例》
- 弘法大師ゆかりの寺院
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - ファミリーレストラン
 - コンビニエンスストア
 - 宿泊施設
 - 遍路小屋
 - 休息所
 - 店舗・スーパー
 - コインランドリー
 - 公共トイレ
 - 医療機関
 - 道の駅
 - 温泉



県立五台山公園 ● 高知県立牧野植物園

31



32



縮尺 = 1:14,000 1000m



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)及び数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地名情報)を使用した。(承認番号 平28情使 第1132号)

第32番 禅師峰寺

●高知県南国市十市3084
☎088-865-8430
●宿坊/なし



第33番 雪隠寺

●高知県高知市長浜857-3
☎088-837-2233
●宿坊/なし



沿線の見どころ



県営渡船

浦戸湾の長浜と種崎を結ぶ渡し船。昭和47年(1972)に浦戸大橋が完成し、自動車は浦戸大橋を利用するようになり、今では小型バイクと自転車、人のみ乗船が可能。県道弘岡下種崎線にあり県営で運賃無料。航海時間は約4分。30分から1時間間隔で運航。禅師峰寺と雪隠寺のコース上にあり、お遍路さんの利用も多い。

所 高知県高知市梶ヶ浦渡船場～種崎渡船場
☎ 088-882-8646
(高知土木事務所道路保安担当)
時 6:30～20:00
休 臨時運休あり



沿線の見どころ



桂浜水族館

桂浜の浜辺にある水族館で、いきものとの距離がとても近く人気がある。四国で唯一のトドやアシカのショーもあり、ペンギンやウミガメのエサやり体験など、いきものとふれあえるイベントが充実している。巨大魚アカメの飼育個体数は日本で郡泳は必見だ。

所 高知県高知市浦戸778
☎ 088-841-2437
時 9:00～17:00
休 無休
料 大人1,200円



境内の見どころ



境内からの眺め

寺は標高82mの小高い丘のような「峰山」の山頂にあることから「みねじ」「みねでら」などの愛称で親しまれている。参道の石段は急だが、境内からは土佐湾が一望でき、その風景は巡礼の疲れを癒やしてくれる。東には手結岬、西には桂浜を望み、その間には白砂青松が広がる海岸線が延びている。



こぢんまりとした境内には石仏が並ぶ

第32番

八葉山 禅師峰寺

はちようざん ぐもんじいん ぜんじふじ

境内の奇岩と爽快な眺めが見もの

歴史・全体像

寺の言い伝えによると、禅師峰寺は神亀年間(724～729)に、聖武天皇の勅願により行基が建立したとされる。弘法大師は大同2年(807)に来錫し、土佐の海の安全祈願をしながら十一面観世音菩薩を刻んで本尊とした。土佐藩初代藩主山内一豊も、参勤交代で江戸に向かう際には、必ずこの寺に参拝し、旅路の安全を祈願したという。海上交通の安全を祈願して建立されているため「船魂観音」と呼ぶ人もい。鎌倉時代の銘が残る梵鐘など貴重な品も収蔵している。昭和19年(1944)には、俳人・荻原井泉水がこの寺を訪れ、「梵音海潮音海はこんじょう鐘の鳴る」という句を残している。

境内

駐車場では真新しい十一面観世音菩薩が出迎えてくれる。石段を上ると池があり、「屏風岩」と呼ばれる奇岩を背景に不動明王が建つ。この不動明王は一心に願えばすべてが叶うとされ、「峰寺の不動さん」として親しまれている。仁王門をくぐり、石段を上ると、鐘楼があり、その奥に土佐湾を望むようにして建てられた本堂がある。本堂を正面にして左手奥には大師堂。鐘楼の鐘は以前までは麓の集落の時報代わりだったが、現在は気軽に誰でも撞くことができる。また、峰山の山容が八葉の蓮台に似ていることから、八葉山と号している。



本堂では、本尊を拝することができる



御詠歌／静かなる我がみなもとの禅師峰寺浮かぶ心は法の早船
本尊／十一面観世音菩薩
真言／おん まか きやろにきや そわか
宗派／真言宗豊山派
開基／行基菩薩



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



へんろみち周辺の宿泊施設

1 えび庄	088-847-0268
2 国民宿舎桂浜荘	088-841-2201
3 富久美味	088-842-2933
4 民宿まさご	088-841-2580
5 民宿英光	088-842-2164
6 高知屋	088-841-3074

「四国遍路」巡礼マップ

第32番 禅師峰寺 ▶ 第33番 雪蹊寺
 7.5km ※赤い点線は遍路道の一例です

- 《凡例》
- 弘法大師ゆかりの寺院
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - 宿泊施設
 - 遍路小屋
 - 休息所
 - ファミリーレストラン
 - 店舗・スーパー
 - コンビニエンスストア
 - 公共トイレ
 - 医療機関
 - 道の駅
 - 温泉
 - コインランドリー
 - 学校

縮尺= 1:25,000 1000m

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)及び数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地名情報)を使用した。(承認番号 平28情使、第1132号)

第33番 雪蹊寺

●高知県高知市長浜857-3
☎088-837-2233
●宿坊/なし



第34番 種間寺

●高知県高知市春野町秋山72
☎088-894-2234
●宿坊/なし



沿線の見どころ



天然温泉 はるの湯

総ガラス張りの明るく開放的な内湯、高台から田園風景を望む露天風呂、さらには南欧のリゾート地を思わせるスパゾーンなど、単なる温泉にとどまらない湯を楽しむ施設が充実。頭寒足熱という理想的な入浴法が可能な砂湯もあり、じっくりと体の芯から新陳代謝を促すことができる。女湯には体に負担の少ない釜風呂もある。

☞ 高知県高知市春野町西分3546
種間寺から北へ2.4Km
☎ 088-894-5400
🕒 7:00～22:00
🏠 無休(機器のメンテナンス休業日あり)
💰 大人700円



境内の見どころ



土居保墓碑

幕末、土居保(楠五郎)は高知城下の日根野道場の師範代として、坂本龍馬が14歳の時から指導をした。剣の師だけでなく、龍馬の人格形成の部分にも大きな影響を与えたとされる人物だ。慶応3年(1867)、龍馬が最後に高知へ帰った際には、近くの浜に上陸した龍馬と劇的な再会を果たした。



境内の見どころ



太玄塔

名僧とうたわれた山本太玄和尚は、眼病の平癒祈願で四国遍路を始めて雪蹊寺で行き倒れになった玄峰を助け、「心眼を開け」という言葉を授けたという。彼に弟子入りした玄峰は、のちに雪蹊寺の住職となり、太玄和尚を讃えて太玄塔を建立。隣には山本玄峰老師の胸像と、その弟子・鈴木宗忠老師の胸像がある。



詳しい案内板も設置されている境内

第33番

高福山 雪蹊寺

こうふくざん せつけいじ

名僧を輩出した元親ゆかりの禅寺

歴史・全体像

四国霊場に二つだけある禅寺のうちの一つ。延暦年間(782～806)に弘法大師が開山した。最初は松林山高福寺という真言宗の寺であった。鎌倉時代には慶運寺という名に改められる。その後、寺は荒廃するが、天正年間(1573～1592)には月峰和尚が入山。当時の権力者・長宗我部元親が和尚と親しかったことから、寺は再興を果たす。この時に元親の宗派に倣い、真言宗から臨済宗に改宗、寺号も元親の法号から高福山雪蹊寺となる。明治に入り、廃寺の危機に見舞われるが、明治17年(1884)に名僧・山本太玄の努力で再興。弟子の玄峰も終戦時に首相の相談役を務めるほどの人物だった。

境内

長宗我部元親を祀った泰神社と長浜城跡と隣接して建つ雪蹊寺。山門はなく気軽に参拝できる雰囲気。境内に入ると、左手に名僧として知られる山本太玄和尚を讃えた太玄塔がある。

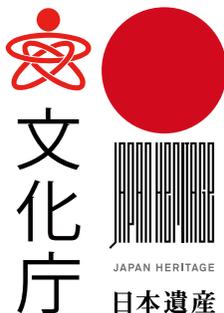
右手には鐘楼があり、正面には大師堂と、新しい本堂が堂々とした構えで建っている。観音堂の横には、安産祈願のために多くの人が訪れるという安産子安地藏がある。

また、境内は長浜小学校の前身・維新館跡、長浜地区の簡易水道発祥の地などが、古くから地域の生活、文化に根付いていることがうかがえる。

御詠歌/旅の道うえしも今は高福寺のちのたのしみ有明の月
本尊/薬師如来
真言/おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
宗派/臨済宗妙心寺派
開基/弘法大師



平成16年(2004)に改築された本堂



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

「四国遍路」巡礼マップ

第33番 雪蹊寺 ▶ 第34番 種間寺

6.3km ※赤い点線は遍路道の一例です

- 《凡例》
- 弘法大師 ゆかりの寺院
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - ファミリーレストラン
 - コンビニエンスストア
 - 宿泊施設
 - 遍路小屋
 - 休息所
 - 店舗・スーパー
 - コインランドリー
 - 公衆トイレ
 - 医療機関
 - 道の駅
 - 温泉
 - 学校



第34番 種間寺

●高知県高知市春野町秋山72
☎088-894-2234
●宿坊／なし



第35番 清瀧寺

●高知県土佐市高岡町丁568-1
☎088-852-0316
●宿坊／なし



沿線の見どころ



ドラゴン広場

JA直売所や鮮魚店に新鮮な農産物や鮮魚など地域の旬の食材や特産品が揃う。和食や定食など、食材にもこだわった様々な飲食店があり、大人数で食べられるよう約80席の客席を設置。気軽に食事を楽しむことができる。



境内の見どころ



しだれ赤松

境内の観音堂の隣に植えられた松は「しだれ赤松」と呼ばれ、流れるような枝の広がりや優雅な印象を与える。もともとは鹿児島島の庄屋に生えていたものだが、その後福岡の老舗松専門業者の看板松として使われ、さらに平成19年(2007)にこの寺へ移植した。樹齢は200年を超えるという。



境内の見どころ



観音堂

種間寺の本尊である薬師如来は「安産の薬師さん」と呼ばれ、安産のご利益があるとされる。安産祈願を申し込んだ妊婦さんには、寺より底を抜いたひしゃくが授けられる。無事に出産を終えたら、そのひしゃくを奉納する。観音堂には、子育て観音を囲むように、数多くの底の抜けたひしゃくが掲げられている。



明るく、どこか近代的な雰囲気のある境内

第34番

本尾山 種間寺

もとおざん すざくいん たねまじ

安産祈願のひしゃくで知られる寺

歴史・全体像

その歴史は6世紀後半までさかのぼるほど古い。敏達天皇の頃、大阪四天王寺を建立するために、百済(今の韓国)から来ていた大勢の技術者が、帰国の途中、土佐沖で暴風雨に遭う。そこでこの地にほど近い場所に避難し、薬師如来像を刻み、本尾山山頂に安置して航海の安全を祈願した。その後、平安時代初期に弘法大師が来錫。百済の人たちが彫った薬師如来を本尊として、寺を開創したという。種間寺という寺号の由来は、開創の際に弘法大師が、唐から持ち帰った五穀の種をこの地に蒔いたからとされている。その後、土佐藩山内家からも信仰を集め、明治時代まで大いに栄えることとなった。

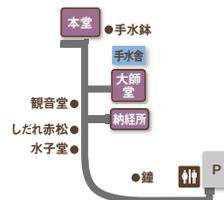
境内

のんびりとした田園風景の中に建つ。ここには山門はなく、駐車場からスムーズに境内へと足を運べる。境内は細長く、まず左手に子育て観音が建つ観音堂が目に入る。その隣にはしだれ赤松と水子堂がある。本堂はコンクリート造りのモダンなデザインで開放的な雰囲気だ。百済の仏師が彫ったとされる薬師如来像は、国の重要文化財に指定された貴重な像。毎年3月8日には一般にも公開される。本堂の横には、300年以上前に作られた古い手水鉢が水をたたえており、寺の歴史を偲ばせる。その手水鉢を挟んで大師堂がある。

御詠歌／世の中にもける五穀のたね
ま寺深き如来の大悲なりけり
本尊／薬師如来
真言／おん ころころ せんだり まと
うぎ そわか
宗派／真言宗豊山派
開基／弘法大師



コンクリート造りに再建された本堂



所 高知県土佐市高岡町甲2116-3
☎ 088-879-9000
時 8:30～20:00(店舗により異なる)
休 無休



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



第35番 清瀧寺

●高知県土佐市高岡町1568-1
☎088-852-0316
●宿坊/なし

第36番 青龍寺

●高知県土佐市宇佐町電163
☎088-856-3010
●宿坊/なし



沿線の見どころ



土佐龍温泉 三陽荘

横浪スカイラインの入り口からほど近い、竜の浜海水浴場の目の前に建つホテルで、日帰り温泉としての利用もできる。1階ロビー奥には純金製の大師像が安置され、無料で参拝できる。まばゆい輝きを放つ黄金大師像の両脇には、不動明王像、木彫坐像大師があり、お遍路さんの安全を見守っている。無料の天然温泉の足湯もぜひ。

所 高知県土佐市宇佐町電504-1
☎0120-15-4592
時 11:00~23:00(受付は21:00まで、ただしメンテナンス日は14:00~)
休 無休
料 入浴のみ大人600円



沿線の見どころ



国民宿舎土佐

横浪半島の小高い丘に建つ国民宿舎。素晴らしいロケーションと施設の充実ぶり、お遍路さんからも支持を得ている。食事処やカフェとしても利用でき、料理は旬の素材を活かした定食や井メニューが豊富。日帰り入浴が可能な展望露天風呂からは、四国屈指の美しい眺望が堪能できる。

所 高知県土佐市宇佐町電599-6
☎088-856-2451
時 電話受付は6:00~22:00
レストラン11:30~14:00、18:00~19:30
休 無休
料 1泊2食付7,300円、ドミトリ(洋室相部屋)素泊まり2,700円~



境内の見どころ



八丁坂

徒歩の場合、本堂まではかなり厳しい傾斜の石段を上らなければならない。そこで「上る人の気持ちを和ませたい」という思いから、一丁ごとにお地蔵さんが置かれ、それが八丁あるから八丁坂と呼ばれるようになった。地元ではこの坂を駆け上がるトレーニングコースとしても利用されている。



正面に建つ大きな薬師如来像が目をはひく境内

第35番

醫王山 清瀧寺

いおうざん きょうちいん きよたきじ

急坂の先で薬師如来像が出迎える

歴史・全体像

養老7年(723)に行基が薬師如来を刻み開基した寺。当初は景山密院積本寺と称していたが、弘仁年間(810~824)には弘法大師が巡錫し、7日間修法し、寺号を清瀧寺と改めた。弘法大師の高弟で、平城天皇の第3皇子高岳親王ゆかりの寺としても知られ、境内の一角に、親王が生きているうちに作った墓・逆修塔がある。藩政時代には、土佐藩山内家の帰依が厚く、寺領10石ともいわれ、七堂伽藍を備えるほど大いに栄えた。一時は衰退したというが、現在では厄除けの名刹として知られる。境内のお堂に安置されたお地蔵さんは、婦人病の平癒祈願にご利益があるとして、多くの人が参拝する。

境内

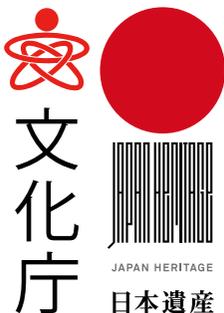
どかな文旦畑が広がる清瀧山の中腹に位置する清瀧寺。仁王門には、明治33年(1900)に画家・久保南窓より奉納された龍の絵がかかっており、どこに立っていてもその龍と目が合うことで有名だ。また、境内に車を止める場所があるので、厳しい石段を使わずとも、容易にたどり着くことができる。駐車場右手奥にあるトイレの屋根の上は展望台に活用され、清流・仁淀川が太平洋に注ぎ込む雄大な風景を望むことができる。境内の真ん中には高さ12mにもおよぶ巨大な薬師如来像がたち、参拝者を出迎えてくれる。

本堂と大師堂は石段を上がって左右に並んでいる。



屋根の曲線が優美な雰囲気醸す本堂

御詠歌／澄む水を汲めば心の清瀧寺
波の花散る岩の羽衣
本尊／厄除薬師如来
真言／おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
宗派／真言宗豊山派
開基／行基菩薩



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もが「お遍路さん」となり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

第36番 青龍寺

●高知県土佐市宇佐町電163
☎088-856-3010
●宿坊/なし

第37番 岩本寺

●高知県高岡郡四万十町茂申町3-13
☎0880-22-0376
●宿坊/あり(要予約)



沿線の見どころ



道の駅 かわうその里すさき

地元・須崎市の特産品はもちろん、高知県下の土産品や地酒も県下屈指の品揃えを誇る道の駅。1階の特産店では、ワラ焼きタタキなど、高知ならではの実演販売もあり。2階のレストランでは新鮮なかつおとネギをたっぷりのせた「土佐丼」や、須崎名物の「鍋焼きラーメン」が味わえる。

所在地 高知県須崎市下分甲263-3
☎0889-40-0004
営業時間 9:00～18:00(レストランは11:00～18:00)
休 無休



沿線の見どころ



久礼大正町市場

かつおの一本釣りの町としても知られる中土佐町にある小さな市場。漁が終わり次第、商品が並ぶので、品数が充実してくるのはお昼頃。腹ごしらえをするなら、市場の中ほどにある食堂「浜ちゃん」へ。かつお丼や干物などが、市場ならではの手ごろな価格で味わえる。時化の日には市場が休みになるので注意しよう。

所在地 高知県高岡郡中土佐町久礼
☎0889-52-2060(市場のみ屋浜ちゃん)
営業時間 店舗により異なる
休 店舗により異なる



境内の見どころ



三重塔

石段の途中に見える三重塔は平成4年(1992)に建立された。ひととき鮮やかな朱色が、周囲に生い茂る木々の緑に映えて、思わず目を奪われる。静かな森の中に突如現れるその姿に、多くの人が足を止めて見入ってしまう。また、大師堂も平成に建て替えられ、真新しくも風格漂う造りとなっている。



石段を上り詰めると、静寂に包まれた本堂が現れる

第36番

独鈷山 青龍寺

とっこうざん いしやないん しょうりゅうじ

大師が唐より投げた独鈷がここに

歴史・全体像

延暦23年(804)に唐に渡った弘法大師は、長安の青龍寺で惠果和尚に真言密教の奥義を授けられた。帰国にあたり大師は、日本にも青龍寺を建立したいと考える。そこで「約束の地に飛んでいけ」という願いを込めて、唐から密教の法具独鈷を東の方角へと投げた。その後、帰国した大師はこの地の老松に、自らが投げた独鈷が刺さっているのを見つけ、一字を建立して不動明王の石像を安置。その後、一時衰退したが、土佐二代目藩主山内忠義が、正保年間(1644～1648)に再興した。しかし、宝永4年(1707)に津波と地震で大きな被害を受けたため再建された。

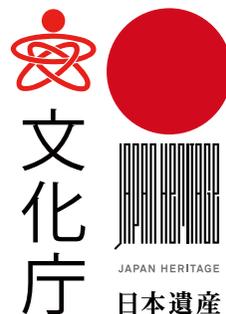
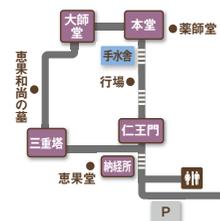
境内

美しい浦ノ内湾を望み、宇佐の大橋を渡って青龍寺へ。本堂までは170段という急で長い石段が続く。石段の脇には愛らしいお地藏さんが並んでおり、疲れを癒してくれる。途中には冷たい水が流れ落ちている行場や、鮮やかな色合いの三重塔などが見える。石段を上ると、大師堂、本堂、薬師堂が一直線に並んだ伽藍配置となっている。本堂の軒先から内陣にかけては、海上安全を祈願して奉納された絵馬が数多く並び、現在も深い信仰を集めている。本堂前には石のお不動さんがたち、向かいには三十三観音の石像が並んでいる。

御詠歌/わずかなる泉に住める青龍は弘法守護のちかいとぞ聞く
本尊/波切不動明王
真言/のうまく さんまんだん ばざらだん せんだ まかろしやだ そわたやうん たらた かんまん
宗派/真言宗豊山派
開基/弘法大師



近年建て替えられた真新しい大師堂



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



「四国遍路」巡礼マップ

第36番 青龍寺 ▶ 第37番 岩本寺

58.5km ※赤い点線は遍路道の一例です



- 【凡例】
- 弘法大師 ゆかりの寺院
 - 宿泊施設
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - 遍路小屋
 - 道の駅
 - 休息所
 - 公共トイレ
 - 医療機関
 - ファミリーレストラン
 - コンビニエンスストア
 - 店舗・スーパー
 - コインランドリー

第37番 岩本寺

●高知県高岡郡四万十町茂串町3-13
☎0880-22-0376
●宿坊/あり(要予約)

第38番 金剛福寺

●高知県土佐清水市足摺岬214-1
☎0880-88-0038
●宿坊/あり(要予約)



沿線の見どころ



四万十いやしの里

四万十川と土佐湾に挟まれた岬の丘陵地帯にある温泉と食事処。内風呂には、大小二つの湯船があり、小さい方が薬湯だ。緑の中にある露天風呂は、目の前の海から汲み上げた海水風呂。海の癒やし効果を健康増進につなげるタラソテラピーが実践されている。隣接するホテルは細やかなサービスが自慢。

所 高知県四万十市下田3370
☎ 0880-33-1600(四万十の宿)
🕒 6:00~22:00(11~3月は6:30~)
休 無休
🚗 入浴のみ大人680円



境内の見どころ



歓喜天堂

大師堂の前に建つ歓喜天のお堂は、平成8年(1996)に落成した建物。木造でありながら円形という珍しい造りとなっている。本尊は大聖歓喜自在天で、歓喜天や聖天といった名でも知られている。商売繁盛、夫婦円満、子授け祈願、病悩祈願などにご利益があるといわれる。頭は象、体は人間の形をしている。

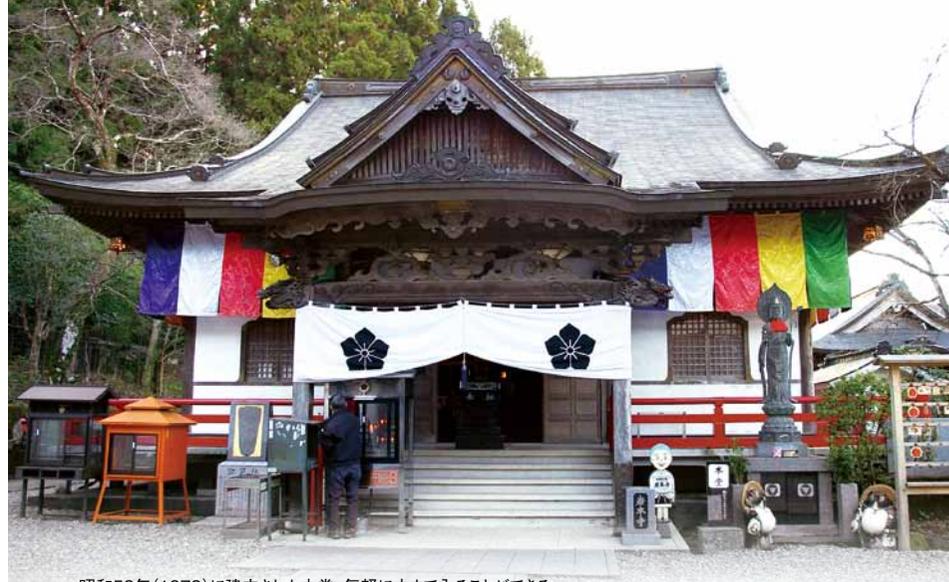


境内の見どころ



本堂の天井絵

一見、落ち着いた雰囲気漂う本堂だが、一歩中に入ると天井一面に広がる鮮やかな絵に驚く。この天井絵は575枚あり、プロ、アマチュア約400人が参加して奉納したもの。洋画、日本画、水彩画、水墨画、ちぎり絵と種類も様々。仏様やマリリン・モンローなどテーマも多彩で、見ていて飽きない。



昭和53年(1978)に建立された本堂。気軽に中まで入ることができる

第37番

藤井山 岩本寺

ふじいざん ごちいん いわもとじ

大師の七不思議が伝わる高原の寺

歴史・全体像

天平年間(729~749)、聖武天皇の勅願により行基が開基した。当時は仁井田大明神の別当として福圓満寺と称していた。行基はこの地に天の七星を象徴した仁井田七寺を建立したとされ、福圓満寺はその根本寺にあたる。弘仁年間(810~824)には弘法大師がこの地を訪れ、さらに5社5寺を建立。一の宮に本地仏の不動明王、二の宮(今宮)に観世音菩薩、中の宮に阿彌陀如来、四の宮に薬師如来、森の宮に地藏菩薩を安置した。その後天正年間(1573~1592)には兵火などにより衰退するが、その後再興。岩本寺と名を改める。本尊は5体あり、それぞれの真言を唱える必要がある。

境内

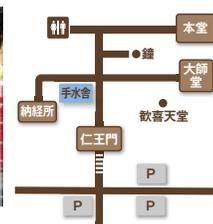
標高280mを超える高原の町・四万十町の旧市街地の中心部にある。仁王門の前は門前町の雰囲気漂う。町中にありながら、静寂に包まれた境内が広がる。

仁王門をくぐる右手に歓喜天堂、境内ではもっとも古くに建てられた大師堂、本堂の順に並ぶ。この寺には、弘法大師にちなんだ七不思議がある。大師の霊力で1年に3回も実ようになったという栗の木「三度栗」など、境内に今もなお残るものもある。

御詠歌/六つのちり五つの社あわして深き仁井田の神のたのしみ
本尊/阿彌陀如来・観世音菩薩・不動明王・薬師如来・地藏菩薩
真言/阿彌陀如来:おん あみりた ていせい から うん
観世音菩薩:おん あうきりや そわか 不動明王:のうまくさん
まんだ ばざらだん せんだ まるろしやだ そはたやうん
たらた かん まん 薬師如来:おん ころころ せんだりまど
うぎ そわか 地藏菩薩:おん かかか びさんまえい そわか
宗派/真言宗智山派
開基/行基菩薩



江戸時代に作られた大師堂



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

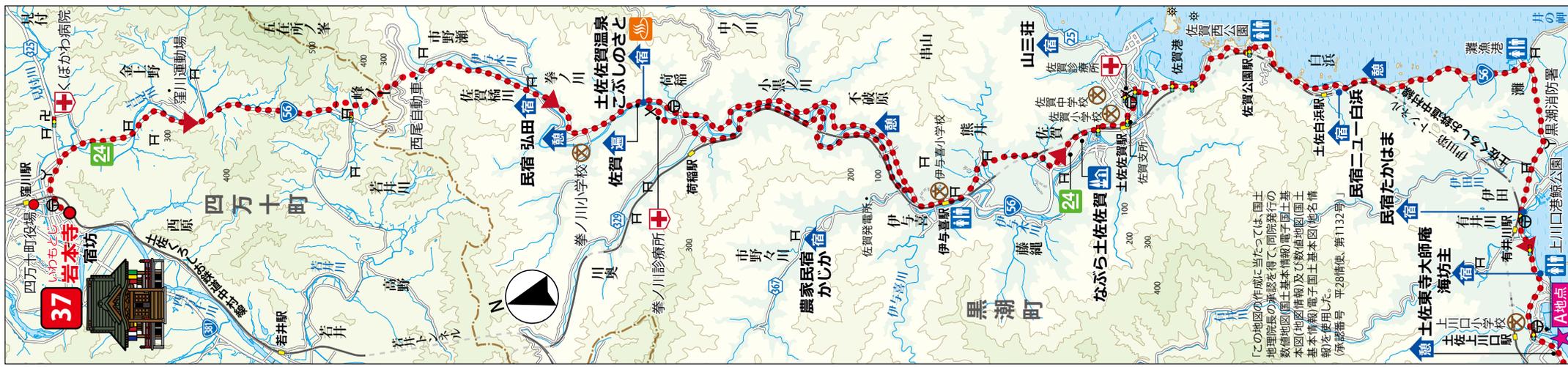
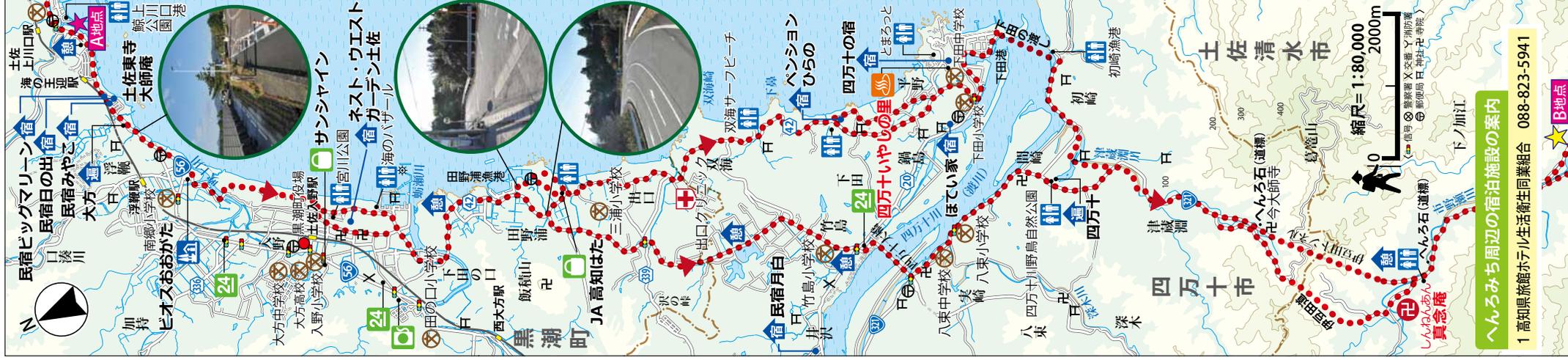


「四国遍路」巡礼マップ

第37番 岩本寺 第38番 金剛福寺

※赤い点線は通路道の一部です

80.7km



第38番 金剛福寺

●高知県土佐清水市足摺岬214-1
☎0880-88-0038
●宿坊/あり(要予約)



第39番 延光寺

●高知県宿毛市平田町中山390
☎0880-66-0225
●宿坊/なし



沿線の見どころ



土佐清水さかなセンター 足摺黒潮市場

県内有数の良港として知られる清水港内にある。鮮魚店、土産店、レストランが入った複合施設。レストランでは、港を行き交う船を眺めながら朝どれの魚を使った料理が楽しめる。オリジナルのタタキのタレやまぐろのかぶと煮はお土産にも最適。清水さば料理は事前の入荷確認がおすすめ。

所 高知県土佐清水市清水932-5
☎0880-83-0151
🕒 売店8:00~16:30、
レストラン11:00~14:00
🚿 無休



沿線の見どころ



万次郎足湯

黒潮の荒波が花崗岩を削ってつくり上げた、高知県天然記念物の「白山洞門」。そのダイナミックな景色を眼下に望む絶好のビューポイントにある足湯。湯はあしずり温泉郷の天然温泉を利用しており、30人が一度に入ることができる西日本最大級の広さを誇る。ゆったりと絶景と足湯が楽しめる人気のスポットだ。

所 高知県土佐清水市足摺岬 白山洞門前
☎0880-88-0988
🕒 8:00~19:00
🚿 水曜



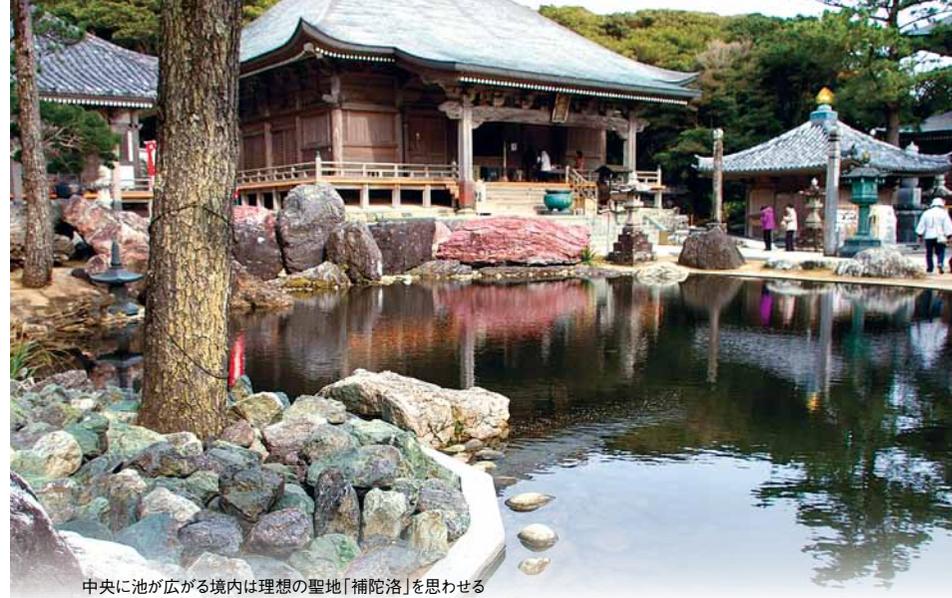
沿線の見どころ



足摺山七不思議

寺の周辺には遊歩道が整備されている。その道沿いには、弘法大師の伝説が伝わる「足摺山七不思議」が点在している。弘法大師が沖の不動岩に渡り祈禱しようとした際、亀を呼んで渡してもらったという亀呼場、揺るぎ具合によって人の善悪を試すゆるぎ石などがあり、それらを探して散策するのも楽しい。

所 高知県土佐清水市足摺岬
☎0880-82-1212
(土佐清水市観光工商課観光係)



中央に池が広がる境内は理想の聖地「補陀洛」を思わせる

第38番

蹉陀山 金剛福寺

さださん ふだらくいん こんごうふくじ

四国の最南端に建つ大寺院

歴史・全体像

弘仁13年(822)、この地で千手観音を感じた弘法大師が、嵯峨天皇より勅願を授け同寺を建立。この寺は観音浄土の入り口の東門にあたる場所とされ、代々天皇家の勅願所となった。平安時代後期には、観音霊場として幅広い信仰を集めた。また、和泉式部や後深草天皇の女御であった二条の使いが、この寺を訪れ黒髪を納めたともいわれている。源氏一門の多田満仲が多宝塔を建立したり、源頼光が諸堂を修復するなど源氏一門とのつながりも深く、寺は大いに栄えた。その後、寺は一条家の庇護を受け、土佐でも最大級の寺院へと発展。本尊の千手観音は秘仏だが、正月などには開帳される。

境内

弘法大師が修行したとされる四国の最南端・足摺岬の突端に位置する。前の霊場からは約100kmもあり、霊場間の距離としては最長となっている。正面左手には大きな池が広がり、それを囲むように、本堂、大師堂、愛染堂、不動堂、弁天堂、多宝塔などが建ち並ぶ。12万㎡もの広大な敷地面積を誇り、この寺がいかにか篤い信仰を受けていたかがわかる。岬の圧倒的な風景とともに深く印象に残る寺院だ。周辺には「足摺山七不思議」といわれる大師ゆかりの伝説も残る。

御詠歌/補陀洛やここは岬の船のさをとるもすつるも法の蹉陀山
本尊/三面千手観世音菩薩
真言/おんばざらたらまきりく
宗派/真言宗豊山派
開基/弘法大師



どっしりとした本堂は仁王門正面にある



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行: 四国遍路日本遺産協議会/制作: (株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



- 《凡例》
- 私法大師
 - ゆかりの寺院
 - ゆかりの神社
 - ゆかりの場所
 - 宿泊施設
 - 通路小屋
 - 休息所
 - 公衆トイレ
 - 医療機関
 - 道の駅
 - 温泉
 - 学校
 - ファミリーストア
 - コンビニエンスストア
 - 店舗・スーパー
 - コインランドリー



第39番 延光寺

●高知県宿毛市平田町中山390
☎0880-66-0225
●宿坊/なし



第40番 観自在寺

●愛媛県南宇和郡愛南町御狂平城2253-1
☎0895-72-0416
●宿坊/あり(素泊りのみ、要予約)



沿線の見どころ



宿毛市立宿毛歴史館

宿毛の町の歴史や宿毛市ゆかりの人物を、模型や映像、パネル、遺品をはじめとした貴重な展示品によって、わかりやすく紹介した歴史館。「歴史展示室」では、城下町として栄えた江戸時代の町並みをジオラマと美しい映像によって再現している。



境内の見どころ



眼洗いの井戸

境内の庭園の片隅にある眼洗いの井戸は、弘法大師が水不足に困っていた住民のために、錫杖で地面を突いて湧き出させたという霊水。眼病にご利益があるとされ、「宝医水」と名付けられている。祈願するために、実際にこの水で眼を洗う参拝者がいるので、賽銭などを井戸に入れるのは控えたい。



境内の見どころ



赤亀(梵鐘)

亀の背に乗っているのは「延喜十一年」の銘が刻まれた梵鐘。実物は寺宝として大切に保管されており、国の重要文化財。赤亀が亀宮城から持ち帰ったとされ、「赤亀山」という山号の由来にもなっている。この梵鐘は明治時代に県議会の開会・閉会合図に使用するため、高知県庁に出張していたというエピソードもある。



広い境内に本堂と大師堂が建つ静かな寺

第39番

赤亀山 延光寺

しやくきざん じさんいん えんこうじ

山村の寺で修行の道場を終える

歴史・全体像

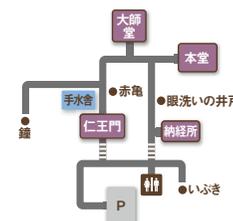
神亀元年(724)、聖武天皇の勅願を受けて行基が開基。当時は亀鶴山施薬院宝光寺と称していた。本尊は行基自らが刻んだ薬師如来。延暦14年(795)、弘法大師が来錫し、日光・月光の両脇侍を安置し、霊場に定めて再興した。延喜11年(911)、赤亀が梵鐘を背負い、海中から現れたので、その時に寺号を赤亀山寺山院延光寺と改める。その梵鐘は高知県内でもっとも古いとされる。中世に入り、大いに栄えたものの近世には衰退。さらに明治の廃仏毀釈で一時は廃寺となる。しかし、ほどなく再興された。寺から約500m離れた場所には奥の院・南光院がある。

境内

仁王門の前には無人市が常設され、巡礼に便利な道具や地元のお土産などが売られている。石段を上がり境内に入ると、右手には、亀宮伝説を象徴しているという、梵鐘を背中に乗せた赤亀が。本堂は広々とした境内の右奥にあり、その隣にはひとまわり小さな大師堂がある。本堂の向かって右手には庭園があり、その前に眼洗いの井戸が残されている。境内を抜けたところにある中庭には、周囲2.7m、高さ約10mの「いぶき」の木がある。幹は傾斜しているものの、樹齢約500年にして、波打つようなコブが強い生命力を感じさせてくれる。宿毛市指定の天然記念物。

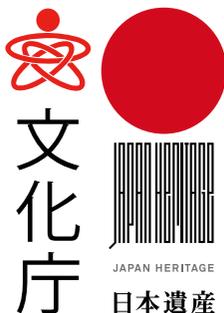


整然としたフォルムが美しい本堂



御詠歌/なむ薬師諸病悉除の願こめて
詣る我が身を助けましませ
本尊/薬師如来
真言/おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
宗派/真言宗智山派
開基/行基菩薩

所 高知県宿毛市中央2丁目7-14
☎ 0880-63-5496
時 8:30~17:00
休 月曜(月曜が祝日の場合翌日)、12/29~1/3
高 高校生以上200円(各種割引有)



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エスピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

